

# 平成 30 年度 人事交流の様子

## ○協力施設⇒大学

小国町立病院・川西湖山病院・公立高畠病院・みゆき会病院・寒河江市立病院・尾花沢病院  
最上町立最上病院

◇派遣者：7 病院から 10 名

### 【研修内容】

○6月27日

主な内容：オリエンテーション、大学の施設・シミュレーター等の見学



○6月28日

主な内容：ジェネラリズム看護論、文献検索



○11月1日

主な内容：看護人間関係論、授業設計

○11月2日

主な内容：授業準備、看護教育学

○11月14日～11月15日

主な内容：教員の研究の取組、ジェネラリズム看護論  
終末期看護論



### ○成人慢性期看護学実習

10月3日～14日

10月10日～11日

10月24日～25日

10月30日～31日

} 山形県立中央病院にて  
公立置賜総合病院にて

○11月7日

主な内容：実習の位置付け・組み立て・受け入れ



○終末期看護論

10月30日

主な内容：授業設計、  
終末期看護論（終末期看護の概念と特徴）



11月8日

主な内容：終末期看護論（システムの違いからみた終末期看護…在宅看護、緩和ケア病棟）

11月15日

主な内容：終末期看護論（システムの違いからみた終末期看護…高齢者施設、緩和ケア外来）

### \*今年度の内容の特徴：

- 昨年度の人事交流評価会議での意見を踏まえ、大学での研修受け入れ日程や内容を幾つかのパターンで構成し、可能な日程で研修に参加できるようにした。
- 「教育力の向上」に視点を置いた研修として、授業設計、実習の位置づけ・組み立て・受け入れ、といった大学教育に関する内容を入れた。
- 「業務の相互理解」として、教員の業務の1つである研究について、取り組んでいる研究の紹介を行った。

### 【研修成果・所感】

- 終末期の看護で、同じテーマについていろいろな分野で活躍している方から講義を受けることにより、広い視点で考えることができた。
- 学生は自分の意見を発表したり、他の学生の意見を聞くことにより、より掘り下げて考えることができていた。
- 大学教育では知識を得るだけの教育ではなく、計画性を持ち、自分で考え感じとる教育をしていると感じた。4年間を通しての計画性、自主性、好奇心、興味、疑問を持って学ぶことはとても大切なことで、スタッフ教育にも通じることと思った。
- 大学の中に入るのは初めてで、新鮮な体験ができた。学生さんがしっかりした目標と意思をもって学んでいるのを感じた。
- 実習を受ける側の病院の指導者が、学校の教員と連絡を密にして情報を共有して学生に関することの重要性や、学生からの質問の返答の方法も思考力を大事にして関ること、なぜその答えが出たのかを聞く、といったようなやり取りがとても重要であることがわかった。
- 看護学実習研修に参加して指導する立場からの研修を受けたことで、私がいままで病院で行ってきた新

人とスタッフの指導を考えて、新たに学ぶことが沢山あった。これからの指導に今回の研修を生かしていきたい。

- 公立高島病院より実習受け入れの経験を聞き、大学が十分な準備をし、病院側との話し合いがされ、共に作っていくことなのだ理解した。実際に演習シートに自設で受け入れした場合のプログラムを作成してみたことで、自施設の現状役割について認識した。